

「バス危機突破 総決起大会」の開催について

日本バス協会は、令和5年11月8日(水)午後、自由民主党本部8階ホールにおいて「バス危機突破 総決起大会」を開催しました。

当日は、全国からバス業界約250名が集結するとともに、バス議員連盟を中心に96名の自民党国会議員の先生方や、国土交通省幹部の皆様にもお越しいただきました。

バス事業は、コロナ禍の3年間における人流抑制により極めて大きな打撃を受け、さらには燃料高や人手不足にも直面し、危機的な状況にあることから、持続的なサービス提供を行うための施策や人手不足対策などの支援を求めました。

清水会長は冒頭の挨拶で、「バス事業は極めて深刻な状況、なんとか路線を維持していくための支援をお願いしたい」とし、大会の決議として、

【「地域ブロック平均単価」を「実勢コスト」に】

【人手不足対策、外国人運転者制度の実現】

【EVバス補助金の大幅増額】

【キャッシュレス化の加速】

の4項目を掲げ、「先生方のお力をお借りして、何とか政府の支援をお願いしたい」と訴えました。



(清水会長挨拶)



(逢沢会長ご挨拶)

バス議員連盟会長の逢沢一郎先生からは、「地域交通としてバス路線を維持するため、バス事業者は懸命な努力を続けておられる。それをしっかりと政治と行政で支え、国民の皆さまの移動の自由を確保できるよう、バス議連とバス事業者が一丸となって取り組んでいきたい」とのご挨拶をいただきました。

御来賓の先生方からは、まず自由民主党・総務会長の森山裕先生から、「地方のバス路線は大変厳しい状況にある。何とか対策を打たないと、公共交通の持続可能性がないことは党内で共有されている。本日決議される内容をしっかりと受け止め、皆さまと一丸となってこの苦難を乗り越えてまいりたい。」とのご挨拶を、また、政務調査会長の萩生田光一先生からは、「昨年が続いてバス総決起大会が自民党本部で行われることはバス業界の危機感の表れとして重く受け止めている。バス事業がしっかりと継続できるよう、バス事業者の皆さまと共に力を合わせて頑張っていきたい。」との挨拶をいただきました。



(森山総務会長ご挨拶)



(萩生田政務調査会長ご挨拶)



(國場国土交通副大臣ご挨拶)

さらに、国土交通副大臣の國場幸之助先生からは、「地域の足を支える公共交通の最後の砦として、バス事業者には日々ご尽力いただいている。路線維持を支える補助金に必要な予算の確保、補助制度の見直しをしっかりと進めていき、バス事業を継続的に維持・改善できるよう、皆さまの経営をしっかり支えるべく対策を講じていきたい。」とご挨拶をいただきました。

次に、京浜急行バス株式会社三崎営業所鈴木所長から、現下の運転者不足で毎日の路線維持にご苦労されている現場の声が届けられたあと、出席された国会議員の先生方お一人お一人から力強い応援のお言葉をいただき、要望事項4項目の大会決議がバス議員連盟事務局次長堀内詔子先生から提案され、満場一致で採択されました。

最後に清水会長の発声によるガンバローコールで総決起大会を終了しました。



(清水会長によるガンバローコール)

バス危機突破 総決起大会 決議

バス事業は、コロナ禍の三年間における人流抑制により、深刻な打撃を受けた。さらに、燃料高、人手不足にも直面し、危機的状況にある。バスが無くなれば、通院や子ども達の通学も困難となるが、全国各地で減便や路線廃止が顕在化してきており、まさに、瀬戸際の状況にある。

バス事業が、公共交通の最後の砦として、持続的なサービス提供を行うためには、国及び地方による抜本的な支援強化が、緊急に必要なである。

このため、政府は下記の事項を確実かつ着実に実施すべきである。

記

- 一 「地域ブロック平均単価」を「実勢コスト」に
 - 二 人手不足対策、外国人運転者制度の実現
 - 三 EVバス補助金の大幅増額
 - 四 キャッシュレス化の加速
- 右、決議する。

令和五年十一月八日

自由民主党バス議員連盟
公益社団法人 日本バス協会